

本日、我が敬愛する同期の勧めもあって、東京財団が主催する「虎ノ門 DOJO (道場)」に初めて参加した。

本日の講演は、日本財団・公益・ボランティア支援グループ自然チームリーダーの黒澤氏であり、タイトルは、「災害救援ボランティアと地域防災」であり、小生もかねがね関心を持っていた事項でもあり、如何なる論が展開されるのかと興味津々であった。そして、講演終了後には丁々発止の議論がなされるものと大いに期待もしたのであった。

論の紹介は省略する。敢えて、本稿を書かんとした動機は黒澤氏の講演内容に疑義や異論があったとか云うものではない。聴衆の質問に愕然としたからである。

本論の前に、「東京財団・虎ノ門 DOJO (道場)」について
東京財団・虎ノ門 DOJO (道場) とは、日本財団 (曾野綾子会長) 及び競艇業界のバックアップにより、1997 年 7 月に設立された、政治、経済、教育、社会などの諸課題を多彩な報告者や講師を招聘して自由に意見交換する場である。講演会は、官庁街のど真ん中、港区赤坂 1 丁目の日本財団ビルで、概ね週に一回の頻度で開催されているようだ。

講師には、内外の学者、国会議員、経営者、会社員、学生などが名を連ねている。次回にはベトナムはホーチミン社会科学院教授が予定されていることから、その多彩さは推し測られよう。

時間帯も 1230 頃から午後の 2 時前までであり、全く自由気儘と言うわけでもない僕等にとっては有難い。

1 時間の講演終了後に、さる品の良さそうな紳士から『仄聞するに、ボランティアが民家の庭などの土砂の排泄をしているにも拘わらず、自衛隊は手を拱いて見ただけであったと言う。自衛隊の重機でやって貰えばすぐに済むものを、示されたことしかやらないのだろうか?』と言うような趣旨の質問があり、質疑の中で、『自衛隊が雨の侵入防止の青色のビニールシートを掛けているのも極めて珍しい云々』と言うような論もあり、初参加で目立つ必要もないのに、その様な事はありえない、任務は優先だとしても、能力があり出来る事であるならば決してその様なことをする筈が無いと反論した次第である。

阪神淡路大震災以来、自衛隊の災害派遣に関する認識は驚くほどに深まった筈であるにも拘わらず、質問者のような質問が飛び出すことに吃驚した次第である。まして、官庁街でもあり、向上心のある人々の集まりだろうから、耳を疑ったと言うのが自然な気持ちだ。

講師も最後には、自衛隊が一番危険なところで、最後の最後まで誠実に、本当に愚直なまでに仕事をしてくれており、頭が下がる思いがすると述べて、庇って貰ったが、自衛隊の災害派遣部隊が、劣悪な環境下で、黙々と任務を遂行している事は余りにも当然過ぎて、マスコミも報道してくれない。一番危険なところで救援活動するのは己の務めであると信じてやっているのであって、その様なところにテレビカメラが入ってくるだろうか。

思い出すのは、阪神淡路大震災でも、自衛隊の姿が見えないとか某偉い政治家が宣わったと言う話である。

自衛隊も自らの活動をもう少し正々堂々と広報すべきである。誰に見られていようが、誰にも見られていまいが、マスコミのスポットを決して浴びる事がなくても、己の任務に生きがいと充実感を以って遂行する、その様な姿も健気で美しいが、その事が逆に自衛隊の真実の姿を見えにくくしてはいないだろうか。私はそれを恐れる。世は既に、謙譲の美

徳が通じる御時勢ではない。(了)